

栄養科としてのダブルエコ(ecology・economy)への取り組みと成果

岩沼菜穂子¹⁾ 新井美穂¹⁾ 菅野代明¹⁾ 齋藤ゆかり¹⁾ 高橋めぐみ¹⁾ 吉田哲也¹⁾
田部井利勝¹⁾ 今井清令¹⁾ 渡邊美鈴¹⁾ 美原 盤²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院 栄養科

2) 公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院 院長

【はじめに】地球温暖化は大きな社会的問題であり、一般産業界のみならず医療機関でも取り組むことが望まれる。当財団は、平成22年8月より環境保護(ecology)と節約(economy)を目的とした「ダブル エコプロジェクト」(ダブルエコ)を開始し、この問題に取り組んできた。そこで今回、栄養科におけるその活動と成果について報告する。

【活動内容】当科では、平成24年度よりゴミの総排出量の削減と、資源ゴミの再利用に取り組んだ。可燃ゴミについて、平成24年度に、患者食の変更締め切り時間の見直しを行い、変更に伴う破棄食の減少と予備食数の適正化による破棄食の減少に取り組んだ。平成25年度には、職員食の献立の見直しにより残食量の減少に努め、可燃ゴミと資源ゴミとの分別を強化した。不燃ゴミは、缶・瓶納品の食品をレトルトパウチ商品に変更することで排出量を削減した。資源ゴミについては、科内にチェック担当者を決め、その他のゴミとの分別を徹底し、残飯や野菜の下処理によるゴミを飼育用ゴミとして養豚業者への払い出しを行った。

【活動の成果】平成24年5～12月および25年5～12月におけるそれぞれのゴミ排出量を比較すると、可燃ゴミは30,631kgから9,368kgに、また不燃ゴミは462kgから351kgに減少した。一方、資源ゴミは653kgから30,429kgに増加した。これらの結果、当科におけるゴミのリサイクル率(ゴミの総重量に占めるリサイクル可能なゴミの重量の比率)は28%から80%へ上昇した。

【結語】業務内容の大幅な変更ではなく、実施方法のわずかな見直しや視点の変更により、ecology と economy の双方に対し大きな成果を上げることができた。食事を扱う栄養科におけるダブルエコの取り組みは、大きな効果が期待できるものであり、多くの医療機関でこれらの活動が成されることを期待する。